

もくじ

- P10~12 特集 市民を代表する16人に聞きました
- P13~16 第1回定例会一般質問項目
議会活性化推進特別委員会からの報告
- P17 こんなことが決まりました
組合議会報告

議会です こんにちは

特集 市民を代表する16人に聞きました(議席順に掲載)

- ① 3年間の活動を振り返っての感想 ② 残り1年になって今やりたいこと、目指したいこと
- ③ 今後の留萌市にとってあなたが一番取り組みたい課題と方策について

① 燕

昌克議員(萌政会)



① 熱き情熱をこの郷土に！をスローガンに、住民自らが、行動を起こす地域を目指すことで、住民参加型イベントであるオロロン・スノーパラダイスの開催につなげました。

② 基幹産業の活性化に向けた施策の提案や地域の特性を生かした産業の創出によって、雇用の拡大を図ります。

③ マチづくりを行うことは、日本における留萌の優位性を認識し、人を引きつける魅力に磨きをかけ、付加価値を追求することが人口減少の歯止めとなります。

② 笹本

政司議員(萌政会)



① この3年間は、会派の代表や議会内の役職の経験を含め、議会の活性化の議論など多くの勉強をした。

② 副委員長として携わった「議会活性化推進特別委員会」の作業後は、新たな議会活動を軌道に乗せるとともに検証していく。

③ 今後は、迫りくる超高齢化社会に備え、医療や介護などの高齢者福祉施策の充実を図り、高齢者が安心して、この留萌で暮らせるような地域づくりと、それを支える若者が活躍できるように、地域資源を有効に生かす地域の活性化施策を推進する。

③ 鵜城

雪子議員(萌芽クラブ)



① はじめて議員となり3年間、常に身近な問題を市民の目線で捉え、足を運び、真剣に取り組む姿勢を崩さず、住み良い留萌の実現を目指してきた。

② 今までに取り組んできた一般質問における市の答弁から、未だに実施されていない政策などについての検証をしたい。

③ 人口が減り続ける留萌市を考え、小さなマチでも、ここに住む人が心豊かに暮らせるために、子育て環境やマチの活性化・医療福祉の充実など総合的な方策に取り組みたい。

④ 川口

宏和議員(萌芽クラブ)



① これまでの議員活動を通して政治や社会というものは人成り立っていると実感した。

全議員で構成される「議会活性化推進特別委員会」により、開かれた議会を目指し、「議会掲示板」の設置や「エフエムもえる」でのラジオ放送の実施に至ったことは、市民と議会の距離を縮めることにつながった。

② 経済の活性化と移住、定住対策。

③ これから訪れる超高齢、人口減少社会を迎えるため、住みたい、住み続けたいマチに向け、安心して暮らせるマチづくり。

⑤ 珍田

亮子議員(萌政会)



① 議会が変われば留萌市も変わるを目指し、「議会活性化推進特別委員会」を立ち上げ、議会基本条例の策定に向けた審議など、活動が多かった3年間であったと感じています。

② 今年度決算から、新地方公営企業会計制度に見直され、財務諸表の形、記載される数値内容も大幅に変わることになります。

残された期間、監査役として、チェック機能強化を図ります。

③ 未来の留萌市を思うとき、人づくりは、マチづくりの視点で考えなければなりません。人材育成強化に取り組みます。

⑥ 坂本

茂議員(無会派)



① 地域の経済循環の向上を図るため、基幹産業の振興に焦点を置き、あわせて、暮らしを守るため、医療・介護・教育環境が少しでも良くなればと活動してきました。

しかし、力不足を痛感しています。

② 国・道の施策の動向や市政の進展状況に即して、機敏に、厳しく、あくまでも前向きな姿勢で対処していきたい。

③ いまこの段階で、固定的に「一番取り組みたい」など決めることはできません。

⑦ 野呂

照幸議員(民主クラブ)



① 議会改革に向けた広報・広聴における議論結果で、議会掲示板の設置、一般質問の「エフエムもえる」でのラジオ放送を実施できたこと。

② 議会基本条例の策定と、策定後の議会・議員の責任をしっかりと果たすために、市民との協働のもと、市民の声を的確に市政に反映していく。

③ 雇用ニーズと併せて、地域において雇用が安定的に維持されるために、これまで薄かった再就職のための、労働市場を整備する方策が課題。

⑧ 坂本

守正議員(民主クラブ)



① 都市計画道路「(仮称)見晴通」は、国道や道道など市全体の道路ネットワークを補完し行き止まりの解消、冬期間の安心安全な生活道路の確保など重要な道路であり、道と下協議に入り、了承が得られた段階で次の作業に入る予定。

② 平成二十六年途中で学校給食センターの給食調理機器の「整備計画」の策定を求める。「(仮称)見晴通」の早期着工に向けた取り組みの促進を図る。

③ 経済の活性化と雇用の創出、医療・介護・福祉の充実を。

⑨ 小野

敏雄議員(萌芽クラブ)



① 民意を行政に反映させることを念頭に置きながら議員・議会活動をしてきました。

市民の皆さんにご理解をいただくために、行動する議会や議会の「見える化」に取り組んだ期間でもあったと思います。

② 議会として、今まで以上に市民の声を把握するシステムを構築し、それを実践すること。

③ 地場産業・商業の育成・支援も含めて地域経済活性化によるにぎわいの復活、高齢者や子どもたちが健康で安心して暮らせるマチづくりを直結する政策の推進に努めたい。

⑩ 対馬

真澄議員(萌芽クラブ)



① 議員になり、初めて出会う行政用語、予算、決算の様々な数字。それらに戸惑いつつ、目の前にある課題に向き合い解決策を考える3年間でした。

② これまでに取り上げた、さまざまな課題を再確認し、みんなが住み続けたいマチを目指して力を注ぎたい。

③ 今後の留萌市にとって、教育が最も大切なテーマと考える。

自立して生きていく力を、子どもたちに身に付ける教育環境の整備。それが、留萌の未来を拓くと信じる。

特集 市民を代表する16人に聞きました(議席順に掲載)

- ① 3年間の活動を振り返っての感想 ② 残り1年になって今やりたいこと、目指したいこと
- ③ 今後の留萌市にとってあなたが一番取り組みたい課題と方策について

市民を代表する16人に聞きました(議席順に掲載)

- ① 3年間の活動を振り返っての感想 ② 残り1年になって今やりたいこと、目指したいこと
- ③ 今後の留萌市にとってあなたが一番取り組みたい課題と方策について

11 天谷 孝行 議員 (留萌公明党)



① 毎年のように、世界のどこかで起こる大災害。尊い命を失い各地で甚大な被害を受ける災害から、市民の命や財産を守る、「防災・減災」のマチ。
 ② 市民が、安心して暮らせるマチ、住まいの安心、健康と体の安心、食の安心、雇用の安心、財政の安心、インフラ整備の安心。
 「安心」の諸施策を実現するマチ。
 ③ 医療・福祉・環境・経済の安定、いつまでも暮らしやすい、思いやりが満ちる、住み心地の良いマチ、活力があり、未来の希望を誰もが実感する「明るく」マチ。

12 村上 均 議員 (留萌公明党)



① 三・一一東日本大震災の教訓は議員活動の根底にある考え方をさらに強くし、我がマチの防災に対する意識を大きく変え、留萌市の防災・減災対策にさらに取り組んできました。
 ② 財政の健全化の達成と、高齢者や障がい者が安心して暮らせる地域政策、高齢者(独居・認知)対策の推進拡大。
 ③ 経済の活性化を進めたい。自然エネルギー・地域資源の活用や防災対策で雇用を拡大し、若者がこのマチに残れる対策に取り組みきたい。

13 菅原千鶴子 議員 (民主クラブ)



① 生活保護からの脱却をテーマに、釧路市に行き自立支援について視察し、保護受給者の自立支援や子どもたちへの養育環境の改善などに取り組んできました。自立者が確実に増加し、児童生徒への教育機会の拡大が実施された。
 ② 働き続けられる環境づくりに力を入れていきたい。病児・病後児保育を実現するために、近隣の深川市などの実施事例を検討し、留萌市にも開設したい。
 ③ がん専門分野の治療が立ち遅れている。重篤な病気ほど市外に行くことになる。地域完結型の医療提供が望まれる。

14 野崎 良夫 議員 (無党派)



① この三年間は、「議会活性化推進特別委員会」の委員長として、議会基本条例を始め、八項目の調査研究に全力を傾注してきた。これまでにない経験をさせていただいた。
 ② 議会基本条例が十月に施行となるが、「市民に対する議会の約束」が、どう果たされるかである。しっかりと取り組んでいきたい。
 ③ 市民や市職員のために新・財政健全化計画を早期に完結させたい。
 そのうえで、市民生活の基盤である地域経済の活性化と雇用の確保に取り組む。

15 村山ゆかり 議員 (萌芽クラブ)



① 成長する議員でありたいという強い信念を持ち、成長する留萌に市民の声を反映すべく、責任ある行動を心掛けてきた。
 さらに一議員の力から議会全体の結束力を駆使して、留萌の活性化につなげたい。
 ② 三期十二年目、一般質問などでこれまで取り組んできた分野ごとの課題を精査し、もう一歩前進するため努力したい。
 ③ 「留萌大好き人」が、留萌の魅力を情報発信し、定住人口増戦略を創造。持続可能な循環型社会の構築に取り組みきたい。

16 松本 衆司 議員 (萌芽クラブ)



① 皆さんから負託を受けた議員として、『ここに暮らして良かった』と感じることが出来る【ふるさと留萌】のために、マチの、そして議会の活性化を目指して行動してきました。
 ② 福祉・教育という自分自身の本命は当然として、議会基本条例という、市民の皆さんとの約束を基に、真の市議会というものを認識していただくことも必要と考えます。
 ③ 障がいを持たれている方と、ともに暮らせる地域づくりの確立を図るよう努めます。

特集 3

平成26年第1回定例会 一般質問と答弁を 紹介いたします

鵜城 雪子 議員 (萌芽クラブ)

一、留萌市におけるマチづくりについて
 二、市民温水プール「ふるも」の一部再開について

問 基本的なマチづくりのビジョンである都市計画マスタープランを検証すると、道路整備や船場公園造成、下水道整備などハード面は進んでいるが、中心市街地や副港周辺地区などにぎわい復活ゾーンの整備は未だ手付かずの状況である。
 にぎわい復活ゾーンの整備方針を伺いたい。

答 留萌の元気が凝縮するコンパクトなマチづくりに向け、社会基盤整備のハード事業と、まちなかの元気を支える中心市街地の活性化を誘導するソフト事業を組み合わせたマチづくりを進めていく。

問 温水プール「ふるも」の一部再開について、子ども水泳授業が「ふるも」で行う環境が回復したことは大変喜ばしいことである。

しかし、再開案が七月から九月までの土曜・日曜日祝日を除き、開設時間は平日午前十時から午後三時までの昼休み一時間を除く一日四時間となっており、一般市民の利用が極めて困難であると考えられる。
 市民の利用日数を増やす工夫や、夕方以降や土曜・日曜日を市民に開放するなどの対応が必要だと考えるが、市の見解を伺いたい。

答 温水プールには学校プールの集約と市民の健康増進の役割があると考える。市民の健康増進のため、事業の組み立てを検討したが、効果的で持続可能な運営方法を見出せなかったため、平成



▲温水プール「ふるも」

菅原千鶴子 議員 (民主クラブ)

一、寡婦控除の非婚者みなし規定について
 二、地方病院の労働実態と子育ての環境について

問 婚外子の相続について今般最高裁の、「嫡出子」(結婚した夫婦の子供)の半分とした民法第九百条第四号ただし書きにつき、「法の下平等」を保障した憲法第十四条第一項に違反して違憲・無効とする初の判断を下された。これを受け、民法が昨年暮れに改正された。

寡婦控除には、経済的に苦しいひとり親世帯を救済する

問 所得税法の基準に照らして行っている。所得税法の改正を受けてから行いたいと考えている。婚外子の寡婦控除の適用を含めて、全道市長会に働き掛けていく。

答 子育て世代の医療従事者に視点を当てて質問したい。職員が子育てをしながら勤務できる環境整備の一環として開設されている院内保育所を市内幼稚園との連携など、さらなる充実へ向けた取り組みの考えはないか聞きたい。

答 院内保育所は病院勤務者にとって重要な労働環境だと理解している。病院事業管



▲子育てにやさしいマチを目指して

天谷 孝行 議員 (留萌公明党)

一、農林水産業・地域の活力創造プランについて
 二、「防災・減災等に資する国土強靱化基本法」について

問 国は昨年十二月に農林水産業・地域の活力創造プランを策定した。農山漁村には、土地や気候、景色など生産物の高い技術・ノウハウが蓄積されている。留萌市は特性や潜在能力を生かした担い手の育成に、どのように取り組むのか。

答 留萌地域は、全道屈指の高品質米の産地で、高い技術と生産力を持ち、ウニ、エビ、タコなどの海産資源の宝庫で潜在能力が非常に高い。担い手が連携・協力し、農山漁村の活性化に取り組む、地域の誇れる、魅力発信に努める。

問一 国は、昨年十二月、国土強靭化基本法を策定し、人命の保護、公共施設の被害最小化などを基本理念に基本計画を策定し、今年五月以降、市町村において、災害から市民を守る地域計画の策定が求められている。併せて、地域防災センターとしての役割から、新たな消防庁舎を現庁舎の裏側に建設するという情報だが、過去に留萌川氾濫による被害を受けた場所で、津波や水害が発生した時に防災拠点として、不適地ではどの「市民の声」がある。市長の考えを伺いたい。



▲新消防庁舎建設予定地

答一 国土強靭化計画は大規模災害に備え、国土全体の防災減災力を高め、地域の活性化の促進を目指すことが目的である。

市も「均衡ある発展」が基本。現消防庁舎の裏地は市街地のほぼ中央に位置し、部隊の運用や指揮統制機能の確保と、交通アクセスが好条件の場所であり、平成二十二年に道が示した津波発生予測は、北海道北西沖地震の最大遡上五・九メートルの津波にも現庁舎裏地点は影響がなく、建設に適地であると判断した。

野崎 良夫 議員 (無党派)

一、高橋市政第三期目のスタートにあたって

任期満了に伴う留萌市長選挙は、今回も無競争で、同一候補の三期連続は、留萌選挙史上、初めてのこともあった。二月十日に開催された市長選立起に向けての、市政報告会で、市長の発表された「五つの政策と重点的な施設整備」を基に質問する。

問一 留萌港は、最北の不凍港、道北の流通拠点港、対外貿易の門戸港として開港以来、今日までふるさと留萌発展の立て役者として位置づけられて来たが、現在は極めて厳しい状況である。魅力発信に向けての具体策



▲留萌発展の立て役者「留萌港」

を伺いたい。

答一 上川、空知地方の産業生活に関わる流通拠点港、沿岸漁業の基地であり、今後も「高規格自動車道路」と留萌港の流通の一体化と、物流・観光交流などのポートセールスや情報収集により、ニーズの把握とそれに即した施設整備を進めていく。

問一 重点的な施設整備として、東光小学校の改築を始め、五項目が挙げられているが、完成に至る工程表が明らかでない。また、これらの公共事業に対する留萌地域材の利活用の拡大について伺いたい。

答二 財政状況を見ながら、五項目のスケジュールを決定していく。旧北海道合板工場跡は、一、二年後には解体も含めた整備への検討を進める。公共事業

対馬 真澄 議員 (萌芽クラブ)

一、信頼される市役所 二、平成二十六年教育行政執行方針について

問一 全国学力学習調査では、北海道の子どもの平均正答率が全国と比較してその差が縮み、家庭学習の時間も前年より増え、成果が見られている。留萌の子どもたちが、自立して生きてゆくための学力をつけることが必要と考える。今年度、新たに行われる学力向上の取り組みを伺いたい。



▲ICT機器を利用した授業風景

答一 留萌小学校を実践指定校として、教師の指導力向上

業による建築工事、土木工事において、地域材の利用推進を積極的に図っていく。

村山ゆかり 議員 (萌芽クラブ)

一、高橋市政第三期目の市政運営

問一 職員数一七七人という限られた人員で、効率的に業務遂行するための新年度組織体制を伺いたい。重点的な施設整備方針を発表されたが、東光小学校の改築事業は、平成二十六年に耐震度、地盤調査、基本設計と聞いている。実施計画、工事着工時期を確認したい。



▲老朽化が著しい「東光小学校」

答一 将来にわたり、持続可能な組織とするための、採用と組織体制を考えたが、初年度は計画数より少ない現状のため、市民へのサービス低下

下を招かない体制としたい。新たな定員適正化計画では、平成三十年までに職員一九一人を目標としたい。

東光小改築事業は、危険建築物改築と老朽化大規模改造の二種類の事業手法が考えられ、事業手法で年度に違いは出るが、平成二十七年に実施設計を行い、それから三年程度で終了する予定と聞いている。

問一 農業、漁業の後継者不足は、喫緊の課題である。第一次産業を核とした人づくりビジョンと新規就農者支援事業について伺いたい。

答一 担い手育成のための学校開設を提案したい。廃校後の幌糠小・中学校を施設として利活用することはできないか。

答二 将来の人材育成に向け、道や関係機関が開催するセミナーや研修会への参加を促しながら、一次産業を支える意欲と能力のある人材、地域での生産活動などを担う人材の育成と確保に努めたい。新規就農者に対して、営農実習支援助成金や研修受入支援助成金、住居支援などを考えている。道や農協など関係機関と連

坂本 茂 議員 (無党派)

一、介護保険について 二、地域経済の活性化について

問一 介護認定「要支援」者の訪問介護と通所介護サービスの導入を介護保険から切り離し、市町村に移管する計画が国会で決定されようとしている。サービスの切り下げが明らかなの移管をやめ、介護サービスの提供事業者とも連携して国に対し、「現行通りのサービス継続」を強く求めるべきと思うかが。また、この四月、地域密着型特別養護老人ホーム二十床が増えることは喜ばしいが、それでも六十人余の待機者が残る。待機者の救済は介護保険事業主である市の責任だが、どのように対策を考えているのか。



▲開所した「地域密着型特別養護老人ホーム」

答一 高台の用地を見つるのは難しい状況であり、財政面からしても現在地が適地と考えている。この地域の津波の波高については、道が示し



▲老朽化した消防庁舎

問一 市民の安心安全について、東日本大震災以降、消防庁舎を建てる場合は、全国的に高台移転が主流となっているが、そのことについてどのように考えているのか。

また、津波発生時に防災センターや消防庁舎として機能するののか。

答二 職員の自己都合退職は、平成二十四、二十五年度と多くなっているが、長期的な定数管理や人材育成から考えると予定外の退職であり、組織運営には影響があると考える。自己都合退職の要因は、職員自らの勤務・将来目標を立てているが、職場や市役所全体において、将来の目標と違うと受け止めることや感じることが、新たな職種に転職するということがつながったと考える。今年度、策定する定員適正化計画を踏まえながら、優秀

こんなことが決まりました

第1回定例会 3月11日～20日

平成26年第1回定例会は、11日から10日間の会期で開催され、留萌市長の所信表明、行政報告が行われ、一般会計補正予算、条例改正などが審議されました。意見書については、一括議題とすることに「異議あり」の発言が出され、1件ずつ「起立採決」が行われました。

【議案】

- ・平成26年度留萌市一般会計補正予算（第1号）
- ・留萌市体育施設条例の一部を改正する条例制定について

留萌市温水プール「ぶるも」が、平成26年7月1日から9月30日までの期間、一部再開することに伴い、一般・学生、高齢者が使用する場合の使用料について、新たな規定を定めることが必要になったため、この条例の一部を改正することが可決されました。

ほか13件…………… 原案可決

【意見書】

- ・地方自治体の臨時・非常勤職員の待遇改善と雇用安定のための法改正に関する意見書
- ・労働者保護ルール改悪反対を求める意見書

ほか3件…………… 起立多数により原案可決

笹本 牧司 議員 (萌政会)

- 一、市長所信表明から
- 二、高齢者福祉について

問 課題解決に向けて取り組む姿勢と「地産外商」を積極的に進めるとしているが、具体的な内容を伺いたい。

答 私自身、市民との対話を重視するが、市職員もこれまで以上にまちなかへ出向き、直接市民と対話する機会を増やし、市民のニーズを肌で感じ取る。

地域が抱えている課題や問題点を自分のこととして見出し、解決するため職員が主体的に市民目線に立った施策展開に向けて行動していく。

今まで「地産地消」を進めてきたが、これからは地域を飛び越え、首都圏などの大消費地や海外で物産が消費される「地産外商」が留萌経済の発展につながると思っている。観光協会や関連団体、企業との連携で特産品や観光のPRを積極的に進める。

問 超高齢化社会の将来の見通しとして、二〇二五年問題をどのように捉えているか。また、「大介護時代」に

向けての準備について伺いたい。

答 団塊世代の最後の人が七十五歳となり、後期高齢者が、二千万人を超える超高齢化時代となり、国としても高齢者福祉だけでなく、それを支える世代の問題も含め、重要な問題と捉えている。

また、留萌市も人口減少の中で高齢化が一段と進み、厳しい状況になると認識している。国としても医療と介護が連携した施策として、「地域包括ケアシステム」の構築を進めている。

留萌市も、住み慣れた地域とともに支えながら、生き生きと安心して暮らせるよう、第五期の計画検証を行うとともに、第六期の計画を策定していく。



▲「大介護時代」の準備は、どうか

議会活性化推進特別委員会からの報告

三月に開催された第一回定例会において、昨年十二月第四回定例会以降の、調査研究中の事件について左記のとおり報告した。（主な内容のみ）

委員長 野崎 良夫

一、委員会の開催回数について
後の取り組みに生かして行くこととする。

①特別委員会
四回（計三十二回）
②議決事件の拡大について
議決事件の拡大に関し、執行側において「議決すべき事件に関する条例」は今議会（第一回定例会）に提出しないとの結論に至ったが、今後さらに協議を重ねることとする。

二、委員会の決定および確認事項について
①市民説明会などについて
議会基本条例（素案）に対し、市民説明会（八カ所）および、パブリックコメント（十月十五日～十一月十五日）による市民意見、提言の提出を求めたが、直接該当する件数はなかった。

②危機管理対策について
議長に委ねた項目のうち、議会基本条例における「危機管理」については、議員の役割等を危機管理に関する条文（第二十四条）に挿入することで再検討することとした。

各会場への参加者は少人数であったが、出された質問、意見などについては、真摯に受け止め、今後の議会運営や議会基本条例施行

留萌消防組合議会報告

平成二十六年留萌消防組合議会第一回定例会が、三月二十八日に開催されました。始めに、一般質問が行われ、議員が消防庁舎改築事業について、経緯・検討会設置・事業計画・デジタル化との関連・候補地の考え方・スケジュールなどを質問し、坂本茂議員は庁舎問題について現庁舎の問題点を指摘したうえで、建替えの急務・場所・専門委員会の設置・海抜問題・デジタル化との関連、消防団活動についての内容で、それぞれ答弁を求めました。

その中で、現在留萌市においては「新・留萌市財政健全化計画」が進行中ではあるが、今後の財政健全化計画に与える影響などを検討したなかで、庁舎の整備は



▲改築予定の消防庁舎

留萌南部衛生組合議会報告

三月五日に留萌市、増毛町、小平町の議員で構成されている、南部衛生組合議会が開催され、二十六年度予算などが承認されました。

四月一日から増毛町に建設した最終処分場が、倒壊事故により一年遅れの

緊急に着手することが必要であると判断し、場所についてはさまざまな点を考慮し検討した結果、現在地が適地であると判断されました。
今後は組織内において準備室などのプロジェクトチームを設置し、業務を進め、デジタル化については、現庁舎に機器整備をした後、デジタル無線の適切な運用と移設についても検討する旨の発言があり、消防団員の自主防災組織とのかかわりについても、今後協議検討課題とする考えを述べました。
議案としては平成二十五年度補正予算・平成二十六年年度予算・六本の条例改正・留萌消防組合公平委員会委員選任の承認を行いました。
なお、本会議前に開催された留萌消防組合議会全員協議会の場において、今後、留萌消防庁舎の建設について、消防議員全員をもって構成される全員協議会において検討していくことが確認されました。

供用開始となりました。

新しいごみ分別が始まって一年が経過していますが、不適切な分別の問題がまだ残っています。

南部衛生組合議会では、今後も健全な運営のために協議を重ね、チェック機能としての役割を担っていきます。

議会広報特別委員会

委員長 菅原千鶴子、副委員長 鶴城 雪子
委員 燕 昌克、川口 宏和、天谷 孝行